

中国大陸と台湾における「村上春樹現象」

周 鈺

はじめに

1979年、長編小説『風の歌を聴け』（初出：『群像』6月号）で群像新人文学賞を受賞し、文壇デビューを果たした村上春樹は1949年に京都府京都市伏見区に生まれ、兵庫県で育った。読書家として幅広いジャンルの書籍を読みふけた村上は、明治神宮球場で行われた野球の試合を観戦したことがきっかけで小説を書きたいという志願がひらめき、小説創作にとりかかった。それ以降モチーフが多岐にわたる作品を次から次へと発表し、日本だけではなく世界中で読まれるようになる。なかでもアジア、殊に中国語圏においては活発な翻訳・出版を介して「村上春樹現象」⁽¹⁾と呼ばれるブームを巻き起こした。「1989年台湾における『ノルウェイの森』（以下『森』と略す）の翻訳出版を契機に、中国語圏では村上春樹の熱狂的受容が始まった」（藤井省三、2009、3頁）という現実的な状況に加えて、「10年後の上海・北京での中国版『森』大流行へと展開した」（同上）という持続的な受容の様子が示されている。村上文学の国際的受容、とりわけ中国における受容は、村上研究の重要な切口の一つとなっている。なぜならば、村上作品は具体的な受容事情、特に異なる地域での読まれ方における異同によっても特徴づけられているためである。そういった受容の具体像が村上作品の読みにおける多様性を裏付けている。

本稿は、村上作品の受容における最も目立つ事例としての「村上春樹現象」に焦点を合わせており、中国大陸⁽²⁾及び台湾における村上春樹の長期的な受容の過程を遡及しながら、幾つかの代表的な受容事例を通して、大きく翻訳及び出版事情、日常生活への影響という側面に分けて「村上春樹現象」の特徴的な様相を俯瞰してみる。

I. 中国大陸における村上作品の翻訳・出版事情

藤井省三の研究によると、はじめて中国大陸に村上作品を紹介したのは『日本文学』にまで遡ることができる。主に近現代日本文学の動向や中国語訳に関する紹介、評論を扱う雑誌である『日本文学』⁽³⁾の1986年2月号に掲載されたのは、台湾出身の頼明珠⁽⁴⁾が訳した川本三郎による評論「都市の感受性」と、村上の短編三作（「街のまぼろし」「1980年におけるスーパー・マーケット的生活」（『波の絵、波の話』（1984、文藝春秋）より）「鏡のなかの夕焼け」（『象工場のハッピーエンド』（1983、CBS・ソニー出版）より）である。雑誌末尾の「編者付記」は村上の経歴及び作品の特徴を整理したものとなる。しかしこの『日本文学』における紹介は、1985年に台湾の雑誌『新書月刊』⁽⁵⁾の8月号に掲載された村上小特集「村上春樹の世界、頼明珠選訳」をそのまま転載したものである⁽⁶⁾。

中国大陸における「村上春樹現象」に密接に繋がっているのは村上の代表的な一作、1987年に講談社から刊行された『ノルウェイの森』である。日本では国内累計発行部数が1000万部を突破した『ノルウェイの森』は中国語圏において異なる翻訳者による複数の中国語訳が出版され、広い範囲で流行している。1989年に『ノルウェイの森』の中国語簡体字版が漓江出版社から中国大陸で刊行された。日本語を長年にわたって学んできており、当時教員を務めている林少華⁽⁷⁾が翻訳を行った。その後、林少華による誤訳訂正や内容補足などを含める改訂が行われたバージョンが出版された。中国大陸での著作権制度が整ってから、2001年に村上作品の簡体字版著作権を獲得した上海訳文出版社により、斬新な表紙で飾られ、漓江版において削除、簡略化された性描写が補足された「全訳本」と呼ばれるバージョンが発売された。2001年版の『ノルウェイの森』は大きな反響⁽⁸⁾を呼び、中国大陸で最も知られた村上作品として地位を確立した。また上海訳文出版社により、『ノルウェイの森』の精装版や映画特別版などの重版が行われ続けている。そして王海藍の調査結果によると、中国の「村上春樹熱」⁽⁹⁾は実は『ノルウェイの森』のブームであった⁽¹⁰⁾。

翻訳活動が活気に溢れるにつれ、異なる中国語訳⁽¹¹⁾をめぐる議論が行われる

ようになった。2004年、孫軍悦は林少華訳の『ノルウェイの森』の特徴を示したうえで誤訳について論じて「文脈の面では、原テキストを取り巻く歴史的、社会的コンテクストが捨象され、感情の強調と美的雰囲気との醸成に力点が置かれた新しい文脈が作り出されている」（孫軍悦、2004、148頁）と指摘している。2005年、園山延枝は林少華訳について、「ユーモアや会話・固有名詞及び心理描写などに翻訳の主眼が置かれた」（園山延枝、2005、85頁）と評価している一方、「文体的特徴や人物像の理解・再現が不十分である点を併せて、林少華による『再創作』である」（同上、85頁）と結論づけた。

そこで林少華訳と頼明珠訳をめぐる「林頼の争い」と呼ばれる文芸論争が勃発していた。林少華は『ノルウェイの森』以来、現時点まで30点以上の村上作品の中国語簡体字訳を行っていた。中国大陆で刊行された村上作品はほとんど林少華による中国語簡体字版である。林少華の翻訳志向、美的感覚、独自性などを色濃く反映する中国語訳は「林訳」また「林家舗子」と呼ばれている。他方で、台湾での村上春樹の代弁者と言われている頼明珠は村上作品の中国語繁体字版を数多く産出している。頼明珠による中国語繁体字訳は「頼訳」と呼ばれており、平易な言葉遣い、原作への忠実度が高いという特徴を持つ。「林頼の争い」は主に訳文の比較研究を行った学者による二人の訳文の優劣をめぐる論争である。林少華と頼明珠はそれぞれ異なる翻訳観⁽¹²⁾のもとで、「自国化」⁽¹³⁾または「異国化」⁽¹⁴⁾という異なる翻訳方針を主に貫いたことで、同じ中国語でも訳文作風に大きな差異が現れているのである。

2007年に、藤井省三は「中国語が『よく練られて』いる」「厚化粧」（藤井省三、2007、195頁、202頁）のような印象を受けた林少華訳及び林少華の「審美的忠実」⁽¹⁵⁾という翻訳観念を指摘した一方、「お化粧せず」原作用来の「淡々と軽い描写」（同上、196頁）を再現した頼明珠訳に対して「ほぼ完璧な直訳といえよう」（同上、202頁）と肯定した。その議論を知った林少華は、その後『中華読書報』に「林译村上：“0”分?!（林訳村上：0点?!）」⁽¹⁶⁾という題で「厚化粧」を弁明するエッセイを寄稿した。それらをもとに、村上作品の翻訳をめぐる議論が活

性化してきた。また、藤井省三は2009年に「村上春樹の中国語訳：日本文化の土着化と中国本土文化の変革」という論文において、林少華の「審美的忠実」が村上の翻訳信条に異なることを表明した⁽¹⁷⁾。2009年、南海出版社より出版された『走ることにについて語るときに僕の語ること』（2007、文藝春秋）の中国語訳の翻訳者は林少華ではなく、施小煒に変わった。それは中国大陆における村上作品の中国語訳の翻訳事情が新しい局面を迎える契機を作ったと考えられる。

そして注目すべきもう一つの出来事は村上の長編小説『1Q84』（2009-2010、新潮社）の中国語簡体字版をめぐる版權争いである。『1Q84』は中国大陆では版權競争が激しく、膠着状態に陥っていたゆえ、翻訳出版をすぐには実行できなかった。当時の報道によると、激しい争奪戦を経て、北京新經典文化有限公司が100万ドル（当時の為替レートで約9200万円）で版權を獲得した。2010年5月以降、南海出版社から『1Q84』の中国語訳（book1、book2、book3）が相次いで出版されたが、翻訳を担当したのは施小煒である。施小煒訳の村上作品はほかにも2013年に、南海出版社から出版された単行本の『眠』⁽¹⁸⁾が挙げられる。中国大陆における村上作品の出版状況について、『落花之美』に収録されている講演において、林少華がデータを収集したうえで以下のように要約した。

1989年漓江出版社により刊行された村上春樹の代表作『ノルウェイの森』及び「村上春樹精品集」に収められているほかの四冊『羊をめぐる冒険』『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』『ダンス・ダンス・ダンス』、中短編集『象の消滅』は合わせて2000年までに少なくとも50万部が刊行された。そのうち『ノルウェイの森』の発行部数が30万部である。2001年を境に上海訳文出版社が（村上春樹作品の 筆者註）出版ライセンスを取得し、同年2月に『ノルウェイの森』全訳本を出版した。今年（2005年 筆者註）4月に村上の新作『アフターダーク』の中国語訳が世に出た。4年半で、（村上作品の中国語訳 筆者註）合計29作が刊行された。村上の小説がすべて網羅されているだけでなく、一

部の随筆の中国語訳も出版された。『ノルウェイの森』の中国語訳がほぼ2、3カ月毎に5万部のペースでトータル22回も増刷され、累計発行部数は百万部（1021700部）を超えている。2003年4月に出版された『海辺のカフカ』の中国語訳の売れ行きも好調であり、5回にわたり増刷され、26万部以上刊行された。近年、この二作は基本的に売れ筋ランキングの10位以内、もしくは15位以内に入っている。今年（2005年 筆者註）4月に出版された『アフターダーク』（After Dark）は発売一カ月後に2万部増刷され、合計6万部になり、『開卷』と『新京報』の文学類の人気作十作のランキングに入り、さらに上海の『新聞晨报』のランキングの1位に輝いた。前記を概算する結果として、村上作品（の中国語訳 筆者註）はこの4年間、少なくとも200万部以上刊行され、漓江出版社時代の50万部を計算に入れると、15年間で村上作品の中国語訳の正規版発行部数は少なくとも280万部に到達したことになる。恐らくこの数字は最近出版された日本文学作品の中国語訳の総和を超えているだろう。この数字は外国文学作品を含む書籍の平均印刷部数が1万部足らずの中国の出版業界では奇跡的な印刷部数であると言える（林少華、2016、380-381頁）⁽¹⁹⁾。

また林少華が把握したデータの更新によると、『ノルウェイの森』はその後も増刷され、2001年以来、合計23回の増刷になった。『海辺のカフカ』（2002、新潮社）は3年間で29万部も刊行された。『アフターダーク』（2004、講談社）の中国語訳は2005年に刊行以来、2006年の時点では一年足らずの内に6刷、計13万部に達した。さらに「今まで上海訳文出版社から刊行された村上作品の中国語訳は計31作、印刷部数が250万部を超えている。2001年以前の漓江出版社の印刷部数を足すと、トータル300万部以上が刊行された。これは中国の出版業界において奇跡的な印刷部数であろう」⁽²⁰⁾（林少華、2006、39頁）という集計結果もあった。恐らくその奇跡的な発行部数の記録の刷新は現在においても続いている。『新京

報』から転載してきたと考えられる2010年6月22日の『中国新聞網』の「村上春樹『1Q84』売上『小団圓』を超越見込み」⁽²¹⁾という記事によれば、『1Q84 BOOK1』の初刷は120万部、『1Q84 BOOK2』の初刷は60万部であり、発売開始11日後、10万部も増刷された。幾つかの売れ筋ランキングに入り、実際の売上も好調であることは多言を要さない。そして2018年3月12日の『浙江日報』のデジタル版の「『騎士団長殺し』中国語版 初刷35万（二冊）セット 3日間完売」⁽²²⁾という記事によると、2月に『騎士団長殺し』の中国語簡体字訳版の先行予約が開始し、3秒毎に二冊の一セットが売れている。正式発売が始まって、初刷の35万セットがまもなく売り切れる現状に鑑み、現在は増刷中であるという。2021年11月に、村上の短編小説集『一人称単数』の中国語訳が花城出版社により刊行され、翻訳者は焔伊である。

中国大陆において同一作品に複数の中国語簡体字訳が続々と出版されたのはもはや特別なことではない。こうして猛烈な勢いで進行している翻訳・出版情勢は中国における村上のブーム持続の担い手としての役割を全うしている。そのブームがさらに盛り上がっていくとともに、日々の生活中においても影響を及ぼしている。

II. 中国大陆における「小資」の出現

1990年代以降、村上作品が中国大陆の読者に広く受け入れられていく実態は、日中の主流メディアの注目を集め、頻繁に報道されていた。なかでも日本においては『読売新聞』（2004年11月20日号）が「中国で村上春樹が爆発的人气、経済成長が背景」という記事を掲載し、中国での『ノルウェイの森』の売れ行きの伸びと「村上春樹現象」について紹介した上で、その背景には経済的要因が関係すると論じた。この記事は「こうした『村上春樹（中国語読みでツン シャン チュン シュー）現象』を支えるのは、都市部の若い世代。急速な経済発展に伴って生まれた『小資』（プチブル）や『白領』（ホワイトカラー）にとって、今や村上作品は、必読の書だ」という視点を示唆している。記事が指摘した通り、村上の

流行を解明するためには、中国大陸の流行語「小資」の関連情報を把握することがポイントとなってくる。

1978年以降、中国大陸では「改革開放」政策の実施に伴い、国内体制の改革及び対外開放の幕が開かれた。経済面での急成長につれ、中国大陸においては固定収入とある程度の貯金を持ち、生活に困っておらず、経済的な余裕があることを前提とした多様な生活様式を追求する意欲が高揚するなか、「小資」という表現が生まれてきたのである。1990年代後半から脚光を浴びるようになった「小資」は、資本的なレベルの解釈に留まらず、精神的なレベルの憧憬の描出に適用する表現でもある。辞典の語釈によれば、「小資」は「プチ・ブルジョワ」を代表するが、中国大陸で汎用されている「小資」は新しい物事、たとえば西洋のライフスタイルに好奇心を持ち、内的体験を追求し、物質的豊かさ及び精神的な面での多様性、つまり生活の質や品位を求める志向を持つ若者層を指し示す。陸揚の『大衆文化理論』において次のように独特な美意識を伴ったライフスタイルと精神的特徴を指し示す「小資」の定義が示されている。

現在の小資は文化的趣であり、センスであり、ロマンスである。(中略) まず、生活のセンスと文化的情趣である。(中略) 次に、ロマンスへの憧れ、それは都市化されたロマンスである。(中略) 最後に、文化的センスを表すようなムードないし気分である以上、小資は月給3千元以上のキャリアウーマンに限らず、庶民から、中産階級、大ブルジョアジーまで含意できる(陸揚、2008、123頁)⁽²³⁾。

つまり、「小資」という表現に気品ある生活センス、ロマンチックな雰囲気 of 醸成、趣味、娯楽などの生活の細部にまで費やされる閑暇、精神上における自我、個性を持つ主張などの要素が挙げられる。ここでは経済的な面における下限が設けられておらず、精神的な面における欲求が強調されている。

2001年に、林少華が「放談ざっくばらん 村上春樹は中国でなぜ読まれるの

か」というエッセイを発表し、衰えを見せない村上春樹のブームの根本的要因について、「中国の都市に住む青年男女の心の共鳴を引き起こした」⁽²⁴⁾ という魅力的な特徴を掴んでいる。村上文学がどのように中国人の若者から共感を呼び起こしているのか。それは、村上作品が都市生活の中で政治や経済に無関心な姿勢を見せた日本の若者の恋愛への憧憬を軸にした死と生の体験を伴う物語を描き、高度経済成長期の都市化が飛躍的に進み、都市生活の外縁部が広がる一方で生じる物質的な充実と持続的な空虚感、繁忙を極めた生活と心の孤独感というコントラストを鮮明に描き出したためである。そのような精神的な生活の豊かさを情熱的に求め続ける若者像が中国大陆の所謂小資階級の胸に焼き付いた。

加えて、村上作品の主人公の多くはそれぞれ個性を持っており、他人と距離を置きながら交際する。周りに流されやすい人とは違い、社会とある程度離れており、自分の内面世界を重要視し、文芸、藝術などの面に強い関心を持ちながら、「自我」を保つ人物である。さらに、自由と個性への強い崇拝の反面に政治への無関心が性格付けられている。そのような登場人物の性格的特徴が、1980年代頃から、「一人っ子政策」の実施に伴い、一人っ子として生まれた若者が両親をはじめとする家族の寵愛によって自己中心的な性格に育てられつつある一方で、自己の意志を重視しながらも孤独感を常に覚えているという点に重なる部分がある。また、作品において中国人の登場人物及び中国要素、欧米の音楽、飲食品、ファッションなどの文化的景観も中国人の好奇心を掻き立てた。こうして豊かな要素を内包する村上小説を読む行動自体が個性と自由とファッションの代名詞として認識されている。

文学的価値から言えば、恋話を多く扱った村上作品に「恋愛小説」「青春小説」「都市小説」などのレッテルが多く貼られている。そのような認識の影響について、田建新は「中国の村上春樹：『新鮮血液』」の中で以下のようにポジティブに捉えている。

頻繁な翻訳・評論文のなか、毎年のように村上春樹の作品と評論が紹介

され、それによって、「恋愛小説」「青春小説」「都市小説」などといった概念が中国の文壇にも吹き込んでいる。その反響としては、これまでの「傷痕」文学や「現実批判」文学に飽きた読者側にも、また中国当代文学の新しい方向を模索する作者側にも“新鮮血液”をもたらしたとともに、中国の読者たちの村上春樹ブームによる日本現代文学に対する興味が日増しに高まっていることがあげられよう。(田建新、1995、113頁)

すなわち、現実を風刺し、精神的な傷を描いた現実批判といった従来の中国の読者に馴染みのある文学の風向きを一変させた新風が、村上作品の受容とともに中国文壇に吹き込まれてきたのである。村上文学の中国大陸進出が若者の精神的要求に答えられており、読者に新鮮且つ親近感のある読書体験を提供すると同時に、当時の中国の作家にも創作活動の新たな可能性や方向を照らし出した。

その新風の下に生まれた「村上チルドレン」という概念は注目に値する。「村上チルドレン」とは村上作品から多大な影響を受け、創作活動に取り組む作家群を指す。その代表的な中国作家について「村上チルドレンとしてはまず衛慧（ウェイ・ホイ、えいけい、一九七三～）を挙げることができよう」（藤井省三、2007、180頁）と主張している。1973年生まれの衛慧が1999年に発表した小説『上海宝贝（上海ベイビー）』に内包されている露骨な性描写や同性愛者などの要素は村上作品にも多少似通うように見える。つまり、ある意味では村上作品は若手作家の創作活動にまで影響を及ぼしており、大胆な文学作風を促した。一方、公用語が同じ中国語⁽²⁵⁾である台湾においては村上作品が愛読書として読まれているとともに、どのような社会的な影響力を持っているのか、引き続き、「村上春樹現象」の様子を複数の受容事情を通して見ていこう。

Ⅲ. 台湾における村上作品の翻訳・出版事情

台湾における村上受容に大きな役目を担っているのは中国語繁体字版の翻訳者の頼明珠である。『新書月刊』1985年8月号に掲載された前記の頼明珠訳の村上春

樹短編三作が「世界で最初の村上文学翻訳」(藤井省三、2007、90頁)の誕生となった。1986年、時報出版社から、頼明珠による『1973年のピンボール』(初出:1980、『群像』3月号)の中国語訳が出版された。それは「台湾で最初に出版された村上春樹作品の中国語訳」(李詠青、2007、232頁)である。李詠青の研究によると、1986年から1993年まで、『夢で会いましょう』(『夢中見 日本極短篇』、1988、圓神出版社)、『パン屋再襲撃』(『麵包屋再襲撃』、1989、皇冠出版社)、『ノルウェイの森』(『挪威的森林』、1989、故郷出版社)、『ノルウェイの森』(『挪威的森林』、1992、可筑書房)⁽²⁶⁾、『TVピープル』(『電視國民』、1990、皇冠出版社)、『回転木馬のデッド・ヒート』(『迴轉木馬的終端』、1991、遠流出版社)、『ダンス・ダンス・ダンス』(上、下)(『舞・舞・舞』(上、下)、1991、故郷出版社)、『国境の南、太陽の西』(『國境之南、太陽之西』、1993、故郷出版社)の中国語訳が台湾で刊行された。具体的な翻訳事情というのと、「二〇〇六年まで、時報出版社『藍小説』シリーズとして出版された村上春樹の中国語訳作品は合計34部である。その内容は長編小説11部、短編小説11部、中篇小説2部、エッセイ・ノンフィクション10部である」(李詠青、2007、232頁)。

なかでも1989年刊行された『ノルウェイの森』の中国語訳は劉惠禎・黃琪玫・傅伯寧・黃翠娥・黃鈞浩という五人の翻訳者のグループによるバージョンである。「1989年『ノルウェイの森』の訳本は大いに人気を得て、台湾に村上春樹現象を出現させた」(張明敏、2009、45頁)と言われている。さらにその時期について、「1990年代は村上ブームが成長し成熟して、台湾に根を下ろす時期と言えよう」(同上、45-46頁)。林少華訳と頻繁に比較されている頼明珠訳の『ノルウェイの森』の中国語訳⁽²⁷⁾が時報出版社により刊行されたのは、日本で原作が出版されてから約10年近く経過した1997年である。2003年に、誤訳、表現などが頼明珠によって訂正された改訂版が出版された。興味深いことに、2003年版は、日本語原作の装幀をまねして、上下二冊の表紙が赤と緑のクリスマスカラーで鮮やかに飾られている。その後、複数の異なる装幀をした『ノルウェイの森』の中国語訳が時報出版社により次々と出版された。また2018年には時報出版社

により、頼明珠訳が30周年記念版と銘打って売り出されている。

同一作品が同じ翻訳者、また異なる翻訳者によって繰り返し翻訳された状況は、『ノルウェイの森』が中国大陆及び台湾において人気を誇る事実を表明している。ここでは台湾の「藍小説」という書籍のシリーズを取り上げなければならない。「藍小説」について「1995年2月から、『1973年の弾珠玩具』、『遇見100%的女孩』、『聽風的歌』が『藍小説・村上春樹作品集』シリーズに収録され、その後は村上作品はすべて『藍小説』シリーズに組み入れられることとなった」(張明敏、2009、50頁)という由緒がある。CiNii図書で「藍小説」をキーワードにして検索すると、現時点では表示された84点の作品の中、村上作品の中国語訳が64点を占めている。『ノルウェイの森』のほか、『風の歌を聴け』『国境の南、太陽の西』(1992、講談社)などの同一作品も繰り返し改訳、改訂され、出版された事情が分かる。小説だけでなく、随筆や対話集も日本での出版を追って中国語に訳され、出版されている。一方、近年の展開として村上作品の中国語の記念版、限定版など特別なバージョンが頻繁に上梓されている。2017年12月、『騎士団長殺し』の中国語訳二冊が頼明珠により翻訳され、時報出版社から刊行された。2021年1月に、劉子倩による『一人称单数』(2020、文藝春秋)の中国語訳が時報出版社から出版された。以上の翻訳及び出版の面における村上作品の受容以外に、台湾では日常生活においても村上作品の存在感が非常に強い。

IV. 台湾における「小確幸」の流行

台湾における「村上春樹現象」の一側面として、村上作品に密接に関わる店が数多く存在する。台湾の街を歩き回ると、「挪威森林 珈琲館(ノルウェイの森 珈琲館)」、「海邊的卡夫卡 珈琲館(海辺のカフカ 珈琲館)」と出会うことができる。台湾台北市に位する「挪威森林 珈琲館」、「海邊的卡夫卡 珈琲館」、高雄市にある「Norwegian Wood Cafe」などが挙げられる。音楽及び小説の陳列などの手段を使い、村上作品の中の雰囲気を実似するそれらの店舗が村上の高い人気を示している。

台湾では都市的なセンスを表す「非常村上（すごく村上）」（藤井省三、2007、76頁）という流行語まで生まれたのである。人の性格や好みなどを表わす中国語表現の誕生が、村上は単なる作家というよりも、すでにある種の文化的シンボルとして受容されている事実を裏付けている。台湾での村上作品の象徴的な役割を一段と明らかにしたのは、2014年の「小確幸」という言葉が世間の注目の的となった社会的現象である。「同年（2014年 筆者註）の年末（十二月二十八日）には『聯合報』の『夯詞賞（流行語賞）』というコラムで流行語の一つとして」（横路啓子、2020、306頁）「小確幸」が取り上げられ、一世を風靡した。この言葉の意味を究明するにあたり、出典となった村上作品を抜きには語れない。「小確幸」は村上による造語で「小さいけれども、確かな幸せ」の略語である。村上のエッセイ集『ランゲルハンス島の午後』（1986、光文社）をもって初めて登場したのである。エッセイを25編収録した作品集の『ランゲルハンス島の午後』には「小確幸」という一節がある。日常的なさやかな出来事に「小確幸」と出会うシーンを淡々と描いたものである。

引出しの中にきちんと折ってくる丸められた綺麗なパンツが沢山詰まっているというのは人生における小さくはあるが確固とした幸せのひとつ（略して小確幸）ではないかと思うのだが、これはあるいは僕だけの特殊な考え方かもしれない。（中略）

下着のTシャツというのもかなり好きである。おろしたてのコットンの匂いのする白いTシャツを頭からかぶるときのあの気持ちもやはり小確幸のひとつである（村上春樹、1990、82-83頁）。

そして『うずまき猫のみつけかた』（1996、新潮社）において、村上は説明を付け加え、「小確幸」の含意を補足した。

生活の中に個人的な「小確幸」（小さいけれども、確かな幸福）を見出す

ためには、多かれ少なかれ自己規制みたいなものが必要とされる。たとえば我慢して激しく運動した後に飲むきりきりに冷えたビールみたいなもので、「うーん、そうだ、これだ」と一人で目を閉じて思わずつぶやいてしまうような感興、それがなんといっても「小確幸」の醍醐味である。そしてそういった「小確幸」のない人生なんて、かすかすの砂漠のようなものにすぎないと僕は思うのだけれど（村上春樹、1996、118頁）。

偉大な夢や長期的な目標ではなく、自分で幸せの高揚感を味わえる平凡な日々の出来事である。つまり、人が手を伸ばすと届くことができる小さい幸せであるからこそ、生活中にあふれて、人々を適時に慰めたり、励ましたりする。自分ならではの基準によって定められているので、「小確幸」にはそれぞれの個性が現れる。将来に見つけるものではなく、目下即時性のある幸福である。そのような意味をこめられた「小確幸」は、台湾では話題になり、一種の文化的現象となった。「小確幸」の流行が2014年に最盛期を迎えたことの背後には台湾を取り巻く経済的な理由がある。2014年の台湾経済は緩やかな回復が見られたが、力強い成長は期待できなかった。そのため、将来に消極的な姿勢を示しており、人生に価値を感じづらいつ若者が増加していたのである。当時の社会情勢に対して個人的な努力では何も変えられないという悲観的な考えを持つ若者は身近に楽しいこと、幸せを見つけることさえできれば、心が慰められ、少しでも楽になるのではないかという考えを持ち始めた。ちょうど村上の「小確幸」は類似する価値観を表しているので、当時の台湾人に共感を呼んだのは当然であろう。

その時期の台湾では所々で「小確幸」を目撃することができる。まず「小確幸」を店名にした飲食店などが町にあふれている。次に、新聞やテレビ番組においても「小確幸」という語彙が頻繁に使用されている。台湾出身の歌手の陳思函は「小確幸」を題名にして歌を発表したことがある。その歌詞の中において、「微小確定的幸福（微小でありながらも確実な幸福）」と小確幸の定義を繰り返している。そうして小さな幸せに満足感を得ることを提唱する「小確幸」は台湾人

が誇りに思っている性格における明るさ、温かさと相応する精神的な力量を象徴する表現としてさらに文芸的、爽やかなイメージも加えられ、広く使われている。ところが、身近な生活にある種の満足感を覚え、小さい幸福を十分に楽しむという生活様式を推奨する「小確幸」は当時の経済的・政治的背景のもとで、必ずしも好評を得ていたばかりではなく、反発された声もある。では「小確幸」の異なる捉え方を台湾のメディアから引いた複数の使用例を通してみていきたい。

生活「小確幸」 麻痺年輕人作夢⁽²⁸⁾ (生活「小確幸」 若者を麻痺させる夢)

李鴻鈞為兄復仇 批小確幸無助經濟⁽²⁹⁾ (李鴻鈞は兄の復讐 小確幸が経済に役立たずと批判)

市長小確幸市民大不幸 民進黨批朱立倫施政灌水⁽³⁰⁾ (市長小確幸市民大不幸 朱立倫施政の真実性へ 民進党批判)

政績被說「小確幸」 新北市府超酸反擊：感謝賴院長肯定⁽³¹⁾ (政治上の業績が「小確幸」と言われ 新北市超皮肉反擊：賴院長の肯定に感謝)

北市辯論／滿街都是夾娃娃機！丁守中批小確幸 姚文智獻策了⁽³²⁾ (台北市ディベート：町にあふれるユーフォーキャッチャー 丁守中小確幸を批判 姚文智献策)

以上の用例が明らかに示したように、「小確幸」に、積極的、肯定的な意味ばかりが含まれていたとは言えない。特定の場合では、たとえば政治や経済の分野に使われると、批判的でマイナスの意味に力点を置かれている。ここで運用された「小確幸」は身近な物事から満足感を味わうという楽観的な考え方、所謂中国語の四文字熟語の「知足常楽」⁽³³⁾の意味の幅を極端に広げた一種の現実逃避を意味するとも言える。その表現を誇大に考えると、中国人作家である魯迅⁽³⁴⁾によって描出された「精神的勝利法」⁽³⁵⁾との共通点さえ見出せる。「小確幸」は当時、台湾人の焦燥感や失望感を慰める「精神安定剤」のような存在である一方、現状

や将来に不安感を抱いている若者を麻痺させるという役目まで務めている。結果から言えば、当時の台湾社会の現状に応じた若者の価値観や思考回路の変化に伴い「小確幸」は既に村上の解釈から離れつつあり、異なるニュアンスで捉えられるようになった。ところが、プラスの意味であろうと、マイナスの意味であろうと、このように多様な解釈の可能性及び意味合いにおける変化などは村上現象のあふれる生命力を示している。村上作品から抜粋した表現の汎用からは、村上作品の影響力の強さの一端を窺い知ることができる。

つまり、この時期、台湾の村上読者だけでなく、村上を読まない人にとっても村上作品は単なる文学作品ではなくなり、文化的な象徴として日常生活にまで影響力を及ぼしていると結論付けられる。そういった受容事情について、林少華による評価を借用すると、「村上春樹と彼の『ノルウェイの森』はもはや一種の文化的記号となっている。今でも中・大学生とホワイトカラーなどの都市若者層乃至読書界のホットなトピックとなり、頻繁に都市の夕刊などのメディアに取り上げられる『キーワード』であ」⁽³⁶⁾（林少華、2016、307頁）り、中国大陸及び台湾社会のあらゆる面に深遠な影響を与えているといっても過言ではないだろう。

おわりに

村上春樹は1979年に文壇にデビューしてから、バラエティに富んだ作品を産出している。独特な作風及び表現技法が多大な注目を浴びるようになるにつれ、村上は日本だけではなく、世界中で読まれる作家となっていった。殊に中国においては数多くの読者を獲得しているうえ、「村上春樹現象」と呼ばれる風潮を巻き起こした。

本稿は中国語圏に属する中国大陸と台湾における「村上春樹現象」の具体像を考察し、村上受容に関する研究も兼ねて、代表的な出来事を時間軸に照らし合わせながら、翻訳・出版事情、読者の読み、文化的表象の視点からアプローチし、資料を整理してみた。研究者のデータによると、中国の「村上春樹熱」は実は『ノルウェイの森』のブームであることが明らかである。村上作品は繰り返しの

改訳、増刷、重版などの活発な翻訳出版事情を介して多くの読者に読まれており、好調な売り上げを誇る。そして経済的、社会的背景のもとで、若者をはじめとする読者に多大な影響を与える一種の文化的シンボルとなっている。中国大陸では「小資」の愛読書として文学的センスやロマンスへの憧憬などの特徴を色濃く表している。台湾においては、作品のタイトルを店名にした店の出現、「小確幸」などの流行語に伴い、村上文学が若者の煩惱や失望を慰めたり、癒したりする存在となり、日常生活の隅々にまで浸透している。そのような受容実態を全体的に捉えると、単に文学的な関心のみならず、社会的・文化的な関心を伴って広がっていくという特徴が目立つ。こうした活気あふれる「村上春樹現象」が広範囲にわたる受容実態を裏付けたうえで、村上作品の個性のある読者に向けた多様な読みを内包している構造を示している。

注

- (1) 本稿で取り上げる「村上春樹現象」は活発な翻訳・出版事情を含め、村上春樹作品が中国で爆発的な人気を呼んでいるほかに、日常生活の中に多大な影響を与えている諸様相を指すのである。
- (2) 本稿は香港における受容状況を取り上げていないため、「中国大陸」という表現にする。
- (3) 『日本文学』は吉林人民出版社により刊行され、主に近現代日本文学の動向や中国語訳に関する紹介、評論を扱う雑誌である。
- (4) 頼明珠、1947年生まれ、1969年に中興大学農経系を卒業した後、研究助手を務めた。その後、コピーライターとして不動産の広告企画に従事し、1975年から1978年まで千葉大学園芸学部農業研究室に在籍していた。
- (5) 『新書月刊』は1983年に創刊された文化の総合的雑誌であり、新書の紹介や書評などを掲載するのである。
- (6) 藤井省三、2007、『村上春樹のなかの中国』、朝日新聞社、145-146頁を参照のこと。
- (7) 林少華、1952年吉林省に生まれ、1975年に吉林大学日文系を卒業した。1982年に吉林大学大学院にて修士号を取得し、1982年から1987年にかけては暨南大学外国語学部で教鞭を執っていた。その後1987年から1988年にかけて大阪市立大学で日本古典文学を学び、1993年から1996年にかけては長崎県立大学にて教職に就いた。2002年には特別研究員として東京大学で一年間研修生活を送った。
- (8) 2001年のバージョンは何度も増刷され、数多くの読者に愛読されている。研究者の

データによると、『『ノルウェイの森』(全訳本)は二〇〇一年に発売してから五ヵ月足らずで、二〇万部を軽々と突破した』(王海藍、2012、48頁)という。また林少華のデータによると、『『ノルウェイの森』は上海訳文出版社によって刊行され、二〇〇一年二月に発売してから二〇〇二年六月までの一年超で計約五二万部販売された。この間に、刷数も一二刷に達し、書店での売り切れが続出した』(同上、48-49頁)という記録が残った。

- (9) 「Yahoo 辞書」の「村上春樹熱」の項にも、「日本でも人気の作家・村上春樹の作品が、中国で爆発的な人気を集めていること」(王海藍、2009、52頁)と記載されている。
- (10) 王海藍が2008年に中国の学生3000名(大学生が中心となり、修士・博士・在学している社会人を含め、合計3000人)を対象にアンケート調査を行った結果として、有効回答者(2618人)において、「村上春樹の作品を読んだことがある」1475名なかの90パーセント(1325人)の学生が『ノルウェイの森』を読んだ作品として挙げたことが分かった。また「村上春樹の作品を読んだことがある」1475名のうち、1076名が最も印象を残している作品に対して『ノルウェイの森』を選んだことも分かった。この調査結果は中国の「村上春樹熱」は実は『ノルウェイの森』のブームであったという事実を示している。
王海藍、2009、「中国における「村上春樹熱」とは何であったのか：2008年・3000人の中国大学生への調査から」、52頁を参照のこと。
- (11) 異なる中国語訳について、主に林少華による中国語訳(以下林少華訳と略す)と頼明珠による中国語訳(以下頼明珠訳と略す)を取り上げることにする。
- (12) 林少華の翻訳観とは、美的な感覚を重要視し、なるべく中国語表現の特徴を生かし、美しい訳文を産出するため、多くの書き直しを行うことである。
頼明珠の翻訳観という、なるべく書き直しなどの作業を行わず原作に忠実に翻訳することである。
- (13) ローレンス・ヴェヌスティによって定義された「自国化(domestication)」と「異国化(foreignization)」,または「同化」と「異化」、「受容化」と「異質化」とも呼ばれる概念が学者に頻繁に論じられている。
自国化翻訳とは、訳出過程(process of translation)で、目標言語(target language)の言語、文化的な背景に重点を置き、原作にある異国的で馴染みのない文化的な要素などを目標テキスト(target text)の読者が見慣れた親しい要素に馴化させて翻訳する戦略である。
- (14) 異国化翻訳は、起点言語(source language)の言語、文化的な要素にあわせ、目標テキスト(target text)の読者の異質感を最大化させる翻訳の戦略である。
マンデイ、ジェレミー(著)、鳥飼玖美子(監訳)、2009、『翻訳学入門』、みすず書房、232-233頁を参照のこと。
- (15) 審美的忠実とは、訳文の文学的な審美性を保つために、できるだけ硬い翻訳調を取り除き、流暢で美しい訳文を産出するには翻訳者の適当な手入れも欠かせないということである。「在这个意义上,就不是美化,而是一种“信”,一种忠实,即审美忠实。这在文学翻译上不仅是允许的,也是必需的(この意味では、美化ではなく、一

種の『信』であり、一種の忠実であり、審美的忠実である。これは文学翻訳では許されるだけでなく、必要とされるものである。筆者訳)」(林少華、2016、『落花之美』、青島出版社、264頁)を参照のこと。

- (16) 中国語文献の日本語訳は筆者により、以下同。
- (17) 藤井省三、2009、「村上春樹の中国語訳：日本文化の土着化と中国本土文化の変革」『日語学習と研究』第140号、115-116頁を参照のこと。
- (18) 『眠』の日本語原作は2010年、新潮社より刊行された『ねむり』である。「ねむり」は『文學界』1989年11月号に掲載された村上の短編小説であり、後に大幅の改稿を経て『ねむり』という題で単行本として出版された。
- (19) 中国語の原文は「村上春樹の代表作《挪威的森林》(以下简称《挪》)一九八九年由漓江出版社刊行，至二〇〇〇年连同“村上春樹精品集”中的另外四本(《寻羊冒险记》《世界尽头与冷酷仙境》《舞! 舞! 舞! 》、中短篇集《象的失踪》)至少刊行了五十万册，其中《挪》三十万册。二〇〇一年上海译文出版社接盘，同年二月推出《挪》“全译本”，至今年四月村上新作《天黑以后》中译本面世，四年半时间里累计刊行二十九种，不仅将村上的小说几乎一网打尽，还旁及部分随笔。《挪》已印行二十二次，愈百万册(1, 021, 700册)，基本每两三个月便增印五万册。二〇〇三年四月出版的《海边的卡夫卡》亦表现不俗，已印行五次，印数二十六万余册。近年来，这两本书基本在畅销书前十位之内或前十五位左右。今年四月出版的《天黑以后》(After Dark)发行一个月后即加印两万册，达六万册，进入“开卷”和《新京报》文学类十大畅销书排行榜，在上海《新闻晨报》排行榜上甚至名列第一。如此粗算之下，村上作品近四年的印数已逾二百万册。加上漓江时代的五十万册，十五年来村上作品仅有数可查的正版便刊行了二百八十万册左右，此数字大约已超过新时期出版所有日本文学作品的总和。这在包括外国文学作品在内的图书平均印数不足一万册的中国出版界堪称传奇性印数」となっている。
- (20) 中国語の原文は「《挪威的森林》仅在上海译文出版社自2001年以来便已印行23次，逾百万册；《海边的卡夫卡》近三年来已印行29万册；而最新作品《天黑以后》不到一年也已印行六次达13万册。上海迄今刊行村上作品共31种，印数超过250万册。若加上2001年前漓江出版社的印行册数，总印数已逾300万册。这在中国出版界堪称传奇性印数」となっている。
- (21) 中国語の原文は「村上春樹《1Q84》销量被预计会超《小团圆》」となっている。「村上春樹《1Q84》销量被预计会超《小团圆》」、2010年6月22日、『中国新聞網』
<https://www.chinanews.com/cul/news/2010/06-22/2354819.shtml>
最終閲覧日：2023年7月18日
- (22) 中国語の原文は「《刺杀骑士团长》中文版首印35万套3天售罄」となっている。「《刺杀骑士团长》中文版首印35万套3天售罄」、2018年3月12日、『浙江日報』
<https://baijiahao.baidu.com/s?id=1594690890914071206&wfr=spider&for=pc>
最終閲覧日：2023年7月18日
- (23) 中国語の原文は「今天的小资是情调、是品味、是浪漫。(中略)首先是生活的品味和文化的情趣；(中略)其次是向往浪漫，这是一种都市化的浪漫；(中略)最后，既然是一种情调、一种心境，小资就并不限于月薪在三千以上的那一群职业女性，上则中资、大资，下则平头百姓，都可以包括进来」となっている。

- (24) 林少華、「村上春樹は中国でなぜ読まれるのか」、2001年10月号
<http://www.peoplechina.com.cn/maindoc/html/fangtan/200110.htm>
 最終閲覧日：2023年8月21日
- (25) 台湾において、中国語はまた「国語」「台湾華語」とも呼ばれている。
- (26) 1992年可筑書房によって出版された『ノルウェイの森』の中国語訳は林少華によるものである。恐らく漓江出版社により刊行された林少華訳の簡体字版を繁体字に書き直したバージョンであると考えられる。
- (27) 『ノルウェイの森』の中国語訳はほかにも鐘宏傑・馬述禎訳の『挪威的森林—告别处女世界（ノルウェイの森—処女世界への別れ）』（1990、北方文芸出版社）、葉蕙訳『挪威的森林』（1991、博益出版社）などが挙げられる。
- (28) 「生活『小確幸』 麻痺年輕人作夢」、2014年2月26日、『TVBS新聞網』
<https://news.tvbs.com.tw/life/522588>
 最終閲覧日：2023年5月30日
- (29) 「李鴻鈞為兄復仇 批小確幸無助經濟」、2014年3月7日、『ETtoday新聞雲』
<https://www.ettoday.net/news/20140307/332312.htm>
 最終閲覧日：2023年5月30日
- (30) 「市長小確幸市民大不幸 民進黨批朱立倫施政灌水」、2014年3月18日、『ETtoday新聞雲』
<https://www.ettoday.net/news/20140318/336116.htm#ixzz5Y6zhgSXn>
 最終閲覧日：2023年5月30日
- (31) 「政績被說『小確幸』 新北市府超酸反擊：感謝賴院長肯定」、2018年7月21日、『ETtoday新聞雲』
<https://www.ettoday.net/news/20180721/1217748.htm#ixzz8Elrud6z6>
 最終閲覧日：2023年8月12日
- (32) 「北市辯論／滿街都是夾娃娃機！丁守中批小確幸 姚文智獻策了」、2018年11月4日、『ETtoday新聞雲』
<https://www.ettoday.net/news/20181104/1297947.htm#ixzz8ElomdEii>
 最終閲覧日：2023年8月11日
- (33) 「知足常樂」とは中国の熟語であり、満足を知っていることを知っていれば、常に人生を楽しく生きることができるという意味を表わす。
- (34) 魯迅（1881-1936）は中国浙江省生まれの文学者、翻訳者、思想家である。本名は周樹人、最初の名は樟寿。字は豫才。1902年に鉱路学堂を卒業した後、官費留学生として日本に留学した。最初は東京の弘文学院に入学し、1904年に、仙台医学専門学校（現在は東北大学医学部）に入学した。しかし、二年生の時、「幻灯事件」がきっかけとなり、魯迅は医学の道を諦め、文学の道へと転向することを決心した。「幻灯事件」はいわゆる細菌学の授業中に見せられた日露戦争のスライドの一枚がスパイの疑いで捕らえられた中国人が処刑される場面だったが、その光景を見つめる中国人の冷たい顔に魯迅が大きなショックを受けたという出来事である。医学で中国人の身体を治療するよりも、まずは彼らの精神を改造すべきであると考え、魯迅は文学の道に進むことを決めた後、『狂人日記』、『孔乙己』、『故郷』、『阿Q正伝』

等の傑作を多数輩出した。

- (35) 「精神的勝利法」は魯迅の作品『阿Q正伝』の主人公阿Qに用いられている失敗を成功にすり替えるという一種の自己欺瞞の思考方法である。
- (36) 中国語の原文は「村上春樹和他的《挪》成了一种文化符号，至今仍是大中學生和白领阶层等都市青年以至整个读书界的热门话题，仍是不时出现在城市晚报等媒体上的“Key word”（关键词）」となっている。

参考文献

- 藤井省三、2007、『村上春樹のなかの中国』、朝日新聞社
- 藤井省三（編）、2009、『東アジアが読む村上春樹：東京大学文学部中国文学科国際共同研究』、若草書房
- 藤井省三、2009、「序文」、藤井省三（編）、『東アジアが読む村上春樹：東京大学文学部中国文学科国際共同研究』、若草書房、3-6頁
- 藤井省三、2009、「村上春樹の中国語訳：日本文化の土着化と中国本土文化の変革」『日語学習と研究』第140号、111-117頁
- 李詠青、2007、「村上春樹『海辺のカフカ』の翻訳をめぐる諸問題：台湾・中国の中国語訳を中心として」『熊本大学社会文化研究』5、231-246頁
- 林少華、2006、「村上春樹在中国：全球化和本土化进程中的村上春樹」、『外国文学評論』2006年03期、38-43頁
- 林少華、2016、『落花之美』、青島出版社
- 陸揚、2008、『大衆文化理論』、復旦大学出版社
- マンデイ、ジェレミー（著）、鳥飼玖美子（監訳）、2009、『翻訳学入門』、みすず書房
- 村上春樹、1990、『ランゲルハンス島の午後』、新潮社
- 村上春樹、1996、『村上朝日堂ジャーナル うずまき猫のみつけかた』、新潮社
- 孫軍悦、2004、「＜誤訳＞のなかの真理：中国における『ノルウェイの森』の翻訳と受容」『日本近代文学』71、141-156頁
- 園山延枝、2005、「中国に於ける村上春樹『受容』：翻訳者・林少華の評価を中心にした考察」『野草』第76号、76-89頁
- 田建新、1995、「中国の村上春樹：“新鮮血液”」『國文學：解釈と教材の研究』40（4）、113-116頁
- 王海藍、2009、「中国における『村上春樹熱』とは何であったのか：2008年・3000人の中国人学生への調査から」、『図書館情報メディア研究』6（2）、51-61頁
- 王海藍、2012、『村上春樹と中国』、アーツアンドクラフツ

横路啓子、2020、「村上春樹は台湾でどのように受け入れられたのか」、石田仁志（編著）アントナン・ベシュレール（編著）、『文化表象としての村上春樹：世界のハルキの読み方』、青弓社、304-314頁

張明敏、2009、「台湾人の村上春樹：『文化翻訳』としての村上春樹現象」、藤井省三（編）、『東アジアが読む村上春樹：東京大学文学部中国文学科国際共同研究』、若草書房、35-67頁

ウェブサイト

林少華、「村上春樹は中国でなぜ読まれるのか」、2001年10月号

<http://www.peoplechina.com.cn/maindoc/html/fangtan/200110.htm>

最終閲覧日：2023年8月21日

「村上春樹『1Q84』销量被预计会超《小团圆》」、2010年6月22日、『中国新聞網』

<https://www.chinanews.com/cul/news/2010/06-22/2354819.shtml>

最終閲覧日：2023年7月18日

「《刺杀骑士团长》中文版首印35万套3天售罄」、2018年3月12日、『浙江日報』

<https://baijiahao.baidu.com/s?id=1594690890914071206&wfr=spider&for=pc>

最終閲覧日：2023年7月18日

「生活『小確幸』 麻痺年輕人作夢」、2014年2月26日、『TVBS新聞網』

<https://news.tvbs.com.tw/life/522588>

最終閲覧日：2023年5月30日

「李鴻鈞為兄復仇 批小確幸無助經濟」、2014年3月7日、『ETtoday新聞雲』

<https://www.ettoday.net/news/20140307/332312.htm>

最終閲覧日：2023年5月30日

「市長小確幸市民大不幸 民進黨批朱立倫施政灌水」、2014年3月18日、『ETtoday新聞雲』

<https://www.ettoday.net/news/20140318/336116.htm#ixzz5Y6zhgSXn>

最終閲覧日：2023年5月30日

「政績被說『小確幸』 新北市府超酸反擊：感謝賴院長肯定」、2018年7月21日、『ETtoday新聞雲』

<https://www.ettoday.net/news/20180721/1217748.htm#ixzz8Elrud6z6>

最終閲覧日：2023年8月12日

「北市辯論／滿街都是夾娃娃機！丁守中批小確幸 姚文智獻策了」、2018年11月4日、『ETtoday新聞雲』

<https://www.ettoday.net/news/20181104/1297947.htm#ixzz8ElomdEii>

最終閲覧日：2023年8月11日

中国大陸と台湾における「村上春樹現象」

本稿は村上春樹作品の読みの自由度の一側面を見せる「村上春樹現象」を通して村上受容の具体像を分析してみた。特に漢字文化圏に属する中国大陸と台湾における村上の受容様態を考察し、翻訳・出版事情、読者の読み、文化的表象からアプローチし、「村上春樹現象」を示す代表的な出来事を整理してみた。

中国大陸において、村上並びに村上文学が初めて紹介されたのは、村上が文壇デビューをした約7年後の1986年ということになる。研究者のデータによると、「村上春樹熱」は実は『ノルウェイの森』のブームであることが明らかである。それを踏まえたとえて、村上作品が繰り返しの改訳、増刷、重版などの活発な翻訳・出版事情を介して多くの読者に読まれており、好調な売り上げを誇ることが確認できた。そこでさらに異なる中国語翻訳者及び訳文をめぐる論争、作品の中国語簡体字訳の版權の争奪戦が発生した。それは中国大陸における村上作品の翻訳事情の局面を打開する契機を作ったと考えられる。さらに、村上作品から多大な影響を受け、創作活動に取り組む作家群を指す「村上チルドレン」という概念が生まれた。それとは別に、経済的、社会的背景をもとに、日常生活の中においても若者をはじめとする読者に多大な影響を与えられる一種の文化的シンボルとなっている。村上作品は中国大陸の「小資」の愛読書としてその集団の文学的センスやロマンスへの憧憬などの特徴を色濃く表している。

台湾においては1985年に、頼明珠による中国語繁体字訳が村上文学を読者に紹介したのである。その後、数多くの村上作品の中国語繁体字訳の出版に伴い、大勢の読者に愛読され、社会的な流行となった。そして作品の表題を店名にした店の出現、村上による造語である「小確幸」などの用語の流行とともに、異なる角度によって活発に読まれている村上文学が若者の煩惱や失望を慰めたり、癒したりする存在となり、日常生活の隅々にまで浸透している。そして「小確幸」が社会的現象を批判する表現へと変わった事例を通して、異なる読みの可能性が示されている。こうして中国大陸及び台湾に現れている活気あふれる「村上春樹現象」が村上受容の具体像を明らかにしていると同時に、個性のある読者による多様な読み方を裏付けており、村上作品の読者に向けた開放的な姿を示している。